

企画名： 「だれでも好きな電気を選べるスウェーデン

～多様性と可能性ある電力市場に学ぶ～」

実施日時： 1月15日（日） 11:50-13:20

実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 413

登壇者： 佐藤 吉宗（スウェーデン・ヨーテボリ大学経済学部研究員）

レーナ・リンダル（持続可能なスウェーデン協会 理事・日本代表）

参加人数： 約130名

文責： レーナ・リンダル（Lena Lindahl）、（持続可能なスウェーデン協会、理事・日本代表）

佐藤さんが講師で、リンダルさんが司会というかたちの2人によるトークショーの後に来場者との質疑応答を行った。佐藤さんが1990年代の一連の電力市場改革を通じて発送電分離と電力小売の自由化を成し遂げたスウェーデンにおいて、実際に生活する人の視点からそのメリットや意義を説明した。スウェーデンには、電力小売会社が120社以上あり、消費者はそこから自由に選んで契約を結べるだけでなく、それぞれの会社が様々なメニューを用意しており、例えば、エネルギー源は何でも良いから安い電力が欲しい人向けのメニューや、再生可能エネルギー（水力・風力・バイオマス）による電力だけのメニュー、風力の電力100%のメニュー、スウェーデン自然保護協会が認定するエコラベル付きの電力だけを買うメニューなど、非常に多彩な選択肢が用意され、携帯電話の契約を結ぶのと同じ感覚だということが説明された。

選択肢が多いと、消費者は途方に暮れてしまうかもしれないが、そのために用意されているのが、ネット上での電力契約比較サイトである。佐藤さんがトークショーの中で実際にそのサイトの使い方を実演した。自分の郵便番号や、居住形態、年間の推定使用量、再生電力を希望するか否かを入力すると、自分の好みにあった選択肢が、それぞれの小売会社のロゴと電力単価、そして、エネルギー源の種類とともに一覧で表示された。会場の参加者からは、その利便さやきめ細かい選択肢に思わずため息が漏れた。

佐藤さんはスウェーデンの電力自由化の主なメリットを3つ挙げた。1つ目は送電線を分離したことによって、風力やバイオマス発電の新規参入が増えたこと。2つ目は消費者がエネルギー源を選べるようになり、その選択の帰結に責任を負うようになったこと。3つ目は発電コストや送配電コスト、電力会社小売の取り分などが消費者に明確に分かるようになったため、電気料金の内訳の透明性が増したことである。

会場には立見客が出るほど多くの人が詰めかけ、質疑応答の時間には、自由化によって停電が起きないか？、再生可能エネルギーを選べると電気代が高くなるか？などの疑問が寄せられ、佐藤さんがその一つひとつに回答した。

この企画の目的は、地域独占・垂直統合の電力市場しか知らない日本の消費者の方々に、自由化された電力市場についての具体的なイメージを持ってもらうことだった。メディアの注目度も高く、例えば朝日新聞は1月19日朝刊の「社説余滴」というコラムでこの企画について触れた。また、会場には韓国の環境NGOの方もおられ「今までに聞いたことのない話で非常に参考になった。韓国でもぜひ講演して欲しい」というコメントを頂いた。

「一般消費者にとってまだ自由化されていない日本市場のこれからの可能性を具体的に想像できるようにしてもらいたい」というこの企画の目的は達成できたと感じる。

